

聖書：ヨハネの福音書 21 章 1～14 節

説教：主です

## 1 主はどのような者に現れたのか

聖書には、イエス・キリストが十字架で死なれた後、三日後によみがえられたことが書かれています。これに対し、多くの人は言います。「死んだ者が生き返るはずはない。」私は 21 年前に洗礼を受けましたが、正直に言いますと、キリストがよみがえられたことについては、洗礼を受けてからもずっと信じられないままでした。皆さんの中にも、よくわからないという方もおられるはずです。

二千年前、主は弟子たちによみがえられたお姿を現してくださいました。いったいどのような弟子たちにご自分を現したのかを考えていきます。とくにイエスの一番弟子であったペテロに目を留めながら考えていきます。

## 2 ペテロ

### 1) 夢と希望を碎かれる

3 節で、ペテロはほかの弟子たちにこう言っています。「私は漁に行く。」もともとペテロは、ガリラヤ湖で漁師して暮らしていた人です。ところがあるときイエスに出会い、「わたしについて来なさい」と言われて、網を捨て、船を捨て、その日を境にして、ずっとイエスの一番弟子として仕えてきました。自分の生涯をイエスと言う人物にかけてもよいときえ思っていましたから、漁師に未練などありません。それがなぜもう一度戻ることにしたのか。

その事情は、一つ前にある 20 章のところにさかのぼるとわかります。金曜日の夕方、

主は十字架の上で息を引き取られ、墓に葬られました。その金曜日から数えて三日目、週の初めの日、すなわち日曜日の朝、主は死からよみがえられ、まず女性たちにその姿を現してください、次に弟子たちのところに現してくださいました。その時の様子については、「弟子たちは主を見て喜んだ」とあります。ところがどうもこの喜びはそんなに長く続かなかったようです。確かにこの目で主のお姿を見はしましたが、でもその後はぱったりと主の姿を見ることはありません。あれは幻だったのか。それとも夢でも見ていたのか。じょじょに自信がなくなります。

これまで、自分たちはイエスの弟子であると看板を掲げてきました。イエスの人気はうなぎ登りでしたから、多くの人たちが集まりました。いろいろなさきげ物をしてくれました。そのおかげでいままで不自由なく生活することができました。ところが、イエスは犯罪人であると言われて処刑された途端、人々は手のひらを返すようにして態度が変わります。だれも寄りつかなくなります。夢ははかなくも碎かれ、挫折を味わいました。収入は途絶えました。これでは生活が立ちゆきません。とにかく食べなければなりません。そこで漁師の生活にまた戻ることになりました。

### 2) イエスに初めて会ったときの光景を思い出す

子どもの時からやってきた仕事です。自信がありました。ところが、夜通し働いたのに

どういうわけかなにもとれません。だんだん空は明るくなってきます。みな疲れきって、押し黙ってしまいます。

そんなときイエスが岸辺に立ち、「子どもたちよ。食べる物がありませんね」と声をかけられます。不思議なことに弟子たちは、そこに立っておられるのがイエスだとは気がつきません。おそらく、ずっと三年半の間そばで見てきたイエスと姿が違っていたのでしょう。続けてイエスは言います。「船の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」

皆さんも経験があるでしょう。こちらが一生懸命がんばっているときに脇から「あしたほうがよい」と言われても、あまり気持ちがよいものではありません。まして疲れているときに知らない人に指図されると腹が立ちます。それでも無視することはできず、しぶしぶ網をおろしてみました。そうしたら思いがけなく大漁でした。

このできごとを見て、イエスの愛された弟子、この人はヨハネであると言われていますが、その彼が最初に気がつき叫びます。「主です。」

なぜ主であることに気がついたのか。同じ光景を思い出したからです。イエスがまだ活動を始めた頃のことでした。場所は同じこの湖。ペテロやヤコブ、ヨハネが漁をしていましたが、そのときも同じように一匹も獲れません。イエスはこれをご覧になり、「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい」

(ルカ5章4節)と言われ、そのとおりにしてみると、やはり大漁だったのです。

イエスに出会った初めての日、あのときと同じことが今目の前で起きました。そこではっと気がつきました。岸辺に立っている不

思議な人物、あの方こそよみがえられたイエスであると弟子たちは確信します。

### 3) 湖に飛び込む

ヨハネのことばを聞いたペテロは、とっさに上着をおおって、海に飛び込んでしまいます。なぜでしょう。恥ずかしいからです。日本語で「合わず顔がない」と言います。なぜ恥ずかしいのか。

イエスが十字架にかかる直前のことです。ペテロは自信をもって言いました。「私は、たとえ死ぬことがあっても主についてまいります。」ところがそれからわずか数時間後のことです。イエスが逮捕され、その様子を見ようと裁判の席にペテロは潜り込むのですが、隣に立っていた女性から思いがけず、「あなたはイエスの仲間ではないか」と問い詰められます。とっさにペテロは言っています。「いいえ、私はあの人を知りません。」その一部始終を、イエス後ろを振り向きながらじっと見つめておられました。ペテロはその視線をはっきりと覚えているのです。

イエスが十字架で苦しんでいるとき、本当なら、一番弟子として十字架にかけ寄り、イエスを助け出す努力をすべきでした。たとえローマ兵に殺されたとしてもです。ところが、急に恐くなって、イエスを裏切り、見捨てました。どこかの家に鍵をかけて隠れていました。かつての一番弟子がこの「ぎま」です。あまりの恥ずかしさに、湖に飛び込み、身を隠すしかありません。

### 3 裏切る者に現れてくださるイエス

さて、いったいイエスはどのような者に現れてくださったのでしょうか。こう思っていないませんでしたか。「イエスは、信仰深い人た

ちに現れたに違いない。」でも、弟子たちは  
どういう状態でしたか。「イエスはもうい  
なくなつた。もう夢は終わった。イエスのこ  
とではもう食べていけない。」それで漁師の生  
活に戻った人々たちです。信仰よりもまず食  
べること、生活することが大事。そう考  
えていました。信仰深いなどとはとても  
言えたものではありません。

いや信仰が浅いかか深いという話では  
済みません。ペテロを見てください。彼は、  
湖に飛び込むくらい、顔から火が出る  
くらい恥ずかしいことを主に対してや  
ってしまいました。そのペテロにも主は  
姿を現してくださいました。ペテロを  
責めるために現れたのか。このあとを  
読むとわかります。ペテロは、水から  
上がり、濡れた体のままとぼとぼと  
イエスの前に来ます。そんなペテロ  
にもイエスはパンと魚を与え、親しく  
声をかけられ、「わたしの羊を飼いな  
さい」とまで言われます。ペテロを  
信頼しなければこんなことは言  
いません。

こうして見ると、イエスがどんな  
人に現れたことになるのかはつきり  
わかります。信仰深い者に現れた  
のではない。むしろ、イエスを見  
捨てた者、裏切った者、信仰を  
捨てたような者たちに現れて  
くださったのです。

信仰深くなければイエスに近づ  
くことができない。そう思う方が  
おりますが、逆です。イエスは  
信仰深くない者にも親しく近づ  
いてくださいます。いやもっと  
言います。イエスを裏切った者、  
イエスを見捨てた者にも親しく  
現れてくださる。聖書にそう書  
いてあるのです。

そうするとどういうことになる  
のか。「死んだ者がよみがえる？  
ありえない。よくわからないから、  
私はクリスチャンになれない。」

もしそう思っている方がいるの  
なら、弟子たちを見てください。弟  
子たちできわからなかったのです。  
よくわからなくてもよいのです。  
気にすることはありません。こ  
ちらがわからないというのなら、  
主のほうから近づいてくださる  
のです。

近づいて何をされたか。パンと魚  
を弟子たちに分けてくださいまし  
た。主は言われます。「食べる  
ものがありませんね。」「食べる  
もの」とは、もちろん直接には食  
べ物のパンのことを指します。け  
れどもイエスが与えてくださる  
パンですから、口から食べるパン  
という意味だけではありません。  
もっと深い意味があります。

弟子たちは都会に出て一旗揚げ  
て有名になる。幸せになる。そ  
んな夢を抱いていました。でも  
夢破れた今、たとえ食べるパンが  
十分にあったとしても、心の中  
にはぼっかりと穴が開いたまま  
です。そこが埋まらない限り、  
心が満たされることがない。

ならばイエスはどうかされる  
のでしょうか。この方は、私  
たちのすべてを満たす方です。  
口から食べるパンはもちろん、  
私たちにとって最も必要な  
パンを与えようといわれます。  
どんなパンでしょう。ご自分  
のからだを裂き、分け与えて、  
私たちがもっとも必要として  
いるところを十分に満たそう  
といわれます。

誰に与えますか。信仰深い  
人ですか。正しく生きてきた  
人にですか。いいえ。イエス  
はほかの箇所で行われます。  
「わたしは丈夫な者を招く  
ためではなく、病人を招く  
ために来たのです。」(マルコ  
2章17節意訳)

悲しいと思っている方。苦し  
いと思っている方。生きるの  
がづらいなと思っている方。  
もしそう思っておられるなら、  
その人は立派

な病人です。そんな皆さんこそが、イエスの  
食事に招かれています。遠慮することはありません。是非このパンに預かっていただきたく  
いと願います。